

第1回魚津市学校教育審議会会議録

魚津市学校教育審議会
平成25年10月23日(水)

第1回 魚津市学校教育審議会会議録

1 日 時 平成25年10月23日(火) 19:00から20:40まで

2 場 所 魚津市役所第一分庁舎会議室

3 出席者

【審議会委員】

大 愛 高 義 (魚津商工会議所 副会頭)
大 城 克 明 (魚津市PTA連合会 会長)
岡 本 安 克 (魚津市自治会連絡協議会 会長)
小 澤 英 子 (魚津市民生委員児童委員協議会主任児童委員)
笹 田 茂 樹 (国立行政法人富山大学准教授)
中 田 進 (富山県公民館連合会理事)
濱 元 郁 子 (保育所・保護者代表 大町幼稚園保護者)
元 野 雅 樹 (新川青年会議所理事長)
山 浦 春 美 (魚津市立大町小学校 校長)

【魚津市教育委員会】

島 津 豊 (教育委員長)

【事務局】

長 島 潔 (教育長)
川 岸 勇 一 (教育次長兼教育総務課長)
八倉巻 清 彦 (学校教育課長)
江 田 直 樹 (教育総務課総務係長)
武 田 菜穂子 (学校教育課学校教育係長)
石 坂 留 美 (教育総務課総務係主査)
明 石 主 計 (教育総務課総務係主任)
松 倉 貴 宏 (教育総務課総務係主任)

4 審議会内容

(1) 委嘱状交付

(2) 開会挨拶(長島教育長)

皆様、お忙しいところ、魚津市学校教育審議会にご出席していただき、誠にありがとうございます。今ほど、審議委員の委嘱状を交付させていただきました。皆様には、この審議会委員をお引き受けいただきとともに、ご協力いた

きますことに対しまして、心からお礼申し上げます。

さて、ご承知のとおり、近年の少子化の影響もあって、市内の児童生徒数が大きく減少し、学校の小規模化が進んでおります。そういった中で、魚津市では平成 17 年度から小中学校の規模適正化の問題に取り組み、平成 21 年度には基本計画を立ててこの問題を進めてまいりました。しかしながら、当初の予想以上に少子化が加速したため、さらに大きな視野に立った計画が求められています。次代を担う子どもたちの、より良い教育環境を作るため、規模の適正化をはじめ、どんな方策が必要なのか、委員の皆様方からいろんな角度や視点からのご意見等をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(3) 委員の紹介 (50 音順)

(4) 事務局員の紹介

(5) 会長、副会長選出

笹田茂樹委員、会長選出。大愛高義委員、副会長選出。

(6) 会長挨拶

ただいま、審議会の会長に選出されました、笹田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。さて、この審議会は、これから少子化が進行していく中で、学校をどのように作っていくかという、魚津市にとって非常に重要な問題を審議する場となると思いますので、皆様方のご協力をお願いします。

(7) 諮問

(諮問文) 別紙

(8) 審議会の公開について

審議会の都度に、議事録を作成し、市のホームページ等で市民に公開し、市民からの意見を聴取しながら進めていきたいと考えております。

そこで、個人情報保護の観点から、あらかじめ了解を得ておきたいと思いません。

まず、当審議会の委員の氏名等につきましては、公開させていただきたいと思いません。

理由は、当審議会において、最終的に答申を出すわけではありますが、どの様な方々により審議されたかについては市民に公開すべきと判断しております。

ただし、審議内容の公開につきましては、発言者については、発言者 A、B、

Cという表示で個人が特定できない方法で開示したいと思います。報道機関の方にも同様の対応をお願いします。

(9) 議 事

【事務局】

- ①「これまでの経過」について説明 配布資料 1
- ②「小中学校の現状」について説明 配布資料 2
- ③「今後の児童・生徒数、学級数の推計」について説明 配布資料 3
- ④「学校規模に係る諸問題」について説明 配布資料 4

※説明内容は記載省略

【会 長】

ただいま事務局より説明がありましたが、何かご質問等がございますか。

【A 委員】

事務局に確認したい。配布資料 1 に添付されているイメージ図で、各学校名の下に耐震基準について、校舎が○、体育館が○など記載されているが、これは当時の状況を記載したものか。今現在の耐震化状況を教えてほしい。

【事務局】

配布資料 1 のイメージ図は平成 21 年 9 月に作成したものであり、当時の状況を表している。現在の耐震化率は、本年度末で 82.9%になる。本年度末で耐震化されていない学校は、本江小学校、上野方小学校、上中島小学校、西布施小学校である。東部中学校は平成 25 年度から 2 か年計画で行っているため、正確に言えば、東部中学校も残ることになる。

【A 委員】

魚津市の学校耐震化計画はどうなっているか。

【事務局】

文部科学省より、学校耐震化は、平成 27 年度までに全ての学校に対して耐震化を終えるよう通知されている。本市においても、学校統廃合とは切り離し、平成 27 年度までに耐震化を終える計画を立てている。しかし、学校統廃合計画により耐震化計画の見直しもあり得ると考えており、現段階では具体的に回答できないのでご理解いただきたい。

【A 委員】

耐震化が一番大切だが、新しく学校を統廃合していく過程の中で、一方で耐震化を全校で行い、一方で新しい学校を作っていくことは、経費の大きな負担が発生するのではと思われる。よって、スピードを上げて統廃合を進めていくべきと個人的には考える。

【会 長】

学校統廃合計画と学校耐震化計画の兼ね合いが非常に難しい問題である。

【B 委員】

配布資料 2 に各地区の児童数の推計が平成 31 年度まで出ているが、平成 30 年、40 年の推測を示せるのであれば提示してもらいたい。

【事務局】

推計は出生数に基づいたものである。しかし、住民の移動等により不確定なものである。事務局では平成 35 年度までの予測は立てている。必要であれば次回の審議会でも参考資料として提出したい。それ以降の見込みについては、宅地開発等、様々な要素があるため、予測は難しいと判断している。

【会 長】

参考資料という形で、次回審議会の場合、10 年後までの各地区の児童数の推計資料を提出してもらいたい。

【C 委員】

耐震化が終了した後、その後の学校の利用計画については何か考えているのか。

【事務局】

学校規模適正計画により、学校統廃合が進めば、当然に旧校舎の跡地利用の問題が発生する。統廃合後の旧校舎や土地の利用については、教育委員会のみではなく市長部局とも十分検討のうえ、住民に対して示していく必要があると考えている。

【A 委員】

少子化が進む中、学校統廃合の問題は従来から議論されているところである。教育委員会では、学校統廃合の最終的なグラウンドデザインを持っているのであれば、配布資料 1 イメージ図に記載されてある「将来に渡る見直し」にあたる学校数を目指しているのか、あるいは、さらに進めていかなければならないと考えているのか。この審議会でも議論する必要があると思うが、教育委員会の最終的なグラウンドデザインがあれば示してもらいたい。

【事務局】

平成 21 年 9 月に策定された計画は、学校統廃合の目標年度を掲げたものもあるが、設定していなかったものは 7 校ある。また、計画も五年後に見直すことになっていた。しかし、今回の計画見直し、策定にあたっては、教育委員会としては、将来的な形と目標年度を掲げ、その実現に向けて実施して行きたいと

考えている。そのため、前回のように5年後に見直すということはず、今回の計画を最終的なグラウンドデザインと考えている。

【会 長】

教育委員会としては他にグラウンドデザインを策定しており、配布資料1にあるイメージ図ではないということなのか。

【事務局】

7校をさらに進めて統合するという審議会の答申をいただいたならば、それに基づいて進めてまいりたい。

【A 委員】

話し合いにより、7校よりさらに進めて統合すると考えているのか。

【事務局】

審議会では、この後に学校規模適正化の基本方針について議論していただくのだが、その方針が決まった後に、その方針を踏まえ第2回以降の審議会で、教育委員会内部で検討してきた具体的な統合案を提示したい。

【I 委員】

児童数の、あまりの減り具合に衝撃を受けている。今後の話し合いでは、子どもにとっての環境を中心に話し合う必要があると感じた。

【G 委員】

配布資料を見て、自分が思っていた以上の速さで児童数が減っていることがわかった。事務局の説明を聞いて、今回の計画が最終的であり、見直しも行わないと受けとめたが、非常に心強く感じた。魚津市の将来を考えると大胆な統廃合案をまとめなければならないと思っている。

【事務局】

- ①「魚津市の目指す学校教育の姿」について説明 配布資料5
- ②「規模適正化に向けての基本方針」について説明 配布資料6

※説明内容は記載省略

【会 長】

ただいま事務局より説明がありましたが、何かご質問等がございますか。

【C 委員】

教育委員会では、小学校をいくつにするとか、具体的な考えを持っているのか。

【事務局】

本日、適正規模の方針が決まれば、次回以降の審議会で提示したい。

【B 委員】

魚津市の目指す学校教育の姿を考えると、大規模校の問題点を考える必要がある。これらの問題については、基本方針で解決していくということなのか。

【事務局】

18 学級を越えていくと、人数が多すぎるなど、大規模校の問題点を考えていかなければならなくなる。教育委員会としては、学校の規模を 18 学級までにすることで、大規模校の問題は、ある程度解消されると考えている。

【会 長】

今の説明によれば、基本方針通り行くと、大規模校は生まれてこないということによろしいか。

【事務局】

そう考えている。

【会 長】

事務局より、小規模校、大規模校いずれも問題点があるとの説明であった。J 委員は、現場にいるが、どのように感じているか。

【J 委員】

1 学年 2 学級の学校にも勤務したことがあるし、また、4 学級の学校にも勤務した。全体で 6 学級の学校にも勤務した。振り返ってみると、学校の適正規模に示されているとおり、1 学年 2 学級だったころが一番きちんとした教育ができたと思っている。

【会 長】

提示された基本方針のような規模が、最も子どもたちにとって良い環境であると考えているのか。

【J 委員】

教員も非常にやりやすかったという思いを持っている。

【D 委員】

保護者としては、1 学年 2 クラスがちょうど良いと思っている。

【H 委員】

これまで、小規模校は、児童一人ひとり見てもらえて良いのではと思っていた。しかし、資料を見て、小規模校の問題点がわかった。小規模校の子どもが中学生になったとき、クラスがたくさんあるので、動揺するのではと思っている。

【会 長】

さきほど、I 委員は子どもにとって良い環境をという発言であったが、適正規模の提案について、どのように感じているのか。

【I 委員】

本来、自分の子どもは A 学校に通学しなければならないが、配布資料 2 の 6 頁 (2) の⑤に記載されている理由で、B 学校に通っている。理由は 1 学年 1 クラスの小さな学校より 2 から 3 クラスのほうが子どもにとって良いだろうと考えたからである。

配布資料 5 に記載されている学校教育の姿は、素晴らしいと思う。いずれ、教員に配られ理解されると考えてよいのか。

【会 長】

配布資料 5 の魚津市の目指す学校教育の姿とは、来年度予定しているものなのか。

【事務局】

現在もこれに基づいて行っている。

【会 長】

皆さんの意見を聞いていると、学校の適正規模は、事務局が提示した 1 学校 12 から 18 学級が一番良という意見が多いと思われる。

【事務局】

第 1 回審議会を確認いただければ、これを具体化するグラウンドデザインを第 2 回審議会でも提示したい。

【会 長】

皆さんのご異議がなければ、学校の適正規模は、小学校の学級数は 12 から 18 学級、中学校は 12 から 18 学級という方針とし、次回、事務局より提示される具体案を協議するというところでよろしいか。

【C 委員】

私は他の審議会にも参加している。そこでは、学校規模は 12 から 18 学級よりさらに大きな案が出ている。

【事務局】

市の行政改革推進委員会や経済界などでも、小中一貫校の東西 2 校で良いとの意見が出ている。それも含め、次回以降、事務局が提示した案をもとに検討していただきたい。

【A 委員】

今回は平成 35 年度まで児童数の推移も提示していただけるとのことだが、現

在2学級で適正であると思っけていても、さらに児童数が減少していくという見込みであれば、3学級を基本とすれば、後に2学級となっても問題はない。いずれにしても、データを提示してもらわないと長期的な判断はできない。

【会 長】

本会では、事務局が提示した、少なくとも12学級以上が適正な学校規模であると合意されたものします。

【事務局】

今後のスケジュールについて説明 配布資料7

※説明内容は記載省略

【会 長】

ただいまの事務局からの説明で、何か質問があればお願いしたい。

【A 委員】

次回開催日は11月上旬となっているが、いつ頃になるのか。

【事務局】

次回審議会は平成25年11月7日(木)に19時から開催したいと考えている。また、10月28日(月)午前中に、西布施小学校、本江小学校、大町小学校の学校視察を企画した。出席できる委員は事務局まで連絡をお願いしたい。

【A 委員】

学校視察で3校を選んだ理由は何か。

【事務局】

西布施小学校は過小規模校。本江小学校は適正規模校。大町小学校は町部の小規模校ということで選ばせてもらった。

【会 長】

第1回の審議会では、学校の適正規模は12学級以上という方針が決定しました。第2回審議会で提示される具体案をもとに今後検討していくこととします。本日はスムーズな議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。次回開催日は平成25年11月7日(木)に19時から開催とすることとします。